

しぜんが、おいしい。

吉田畜産の取り組み①『薬に頼らない。』



保美豚
HOUBI-TON

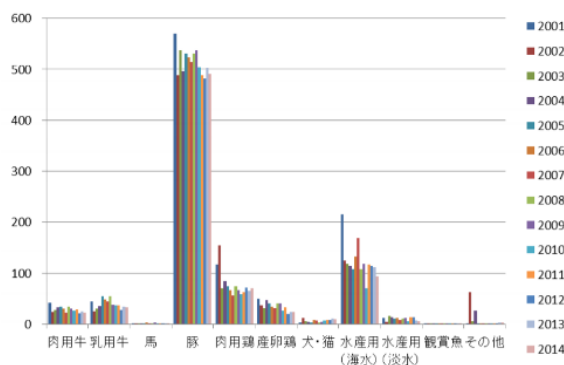
母豚はもちろん、
生まれ、離乳、肥育、そして大きく育つまで、
全段階で抗生物質を使用しない、
全国でも数少ない養豚経営です。

多くの畜産の現場では、病気の予防だけでなく成長を促す飼料添加物として、抗生物質などの薬剤が使用されています。感染症を予防し、短期間での育成ができるので生産効率は良くなるからです。しかし、吉田畜産では、母豚が育つ段階、生まれた子豚の哺育、離乳、肥育期の段階の全てにおいて、抗生物質を一切使用せずに育てています。このような養豚経営は、全国で10にも満たない状況。吉田畜産は、人のいのちを支える健全な畜産であり続けるために、**抗生物質などの薬剤を一切使いません**。薬に頼ることなく、豚が本来持っている自然治癒力や免疫力を高める飼育で安心をお届けします。

抗生物質の過剰使用は、薬剤耐性菌を生み、
人の命をも危険にさらすことにつながります。

日本では、人で使用する約2倍量もの抗菌薬が動物に使われます。動物に使われる抗菌薬の半分以上が豚に使われています。畜産で抗生物質が過剰に使われた結果、動物体内で耐性菌が生き残ると、水、土壌、食肉等の環境を介して、同じ種類の抗生物質だけでなく、種類を超えて他の抗生物質にも耐性が広がるのが、最近の研究でわかってきました。

この結果、人の治療に使っている代替薬の乏しい抗菌薬にまで耐性菌が出現し、治療が難しくなって重症化する、深刻な事態となっています。



しぜんが、おいしい。

吉田畜産の取り組み①『薬に頼らない。』



保美豚
HOUBI-TON

薬剤耐性による死亡者数が世界で広がるなか、 抗生物質の規制が世界では常識となってきています。

● 薬剤耐性による死亡者数が増えています

米国で年間 3.5 万人以上、欧州で年間 3.3 万人以上と推定され、日本でも少なくとも 8000 人が薬剤耐性菌で死亡したと推定されています。（国立国際医療研究センター病院による 2017 年値）

世界全体では 2050 年には薬剤耐性に関連した死亡者数が年間 1000 万人に達する可能性があると言われています。（英国薬剤耐性に関するレビュー委員会第一次報告（2014 年））

● 各国で抗生物質の規制に向けた行動計画が始まっています

2015 年、WHO（世界保健機関）では、「全ての国に対し、世界行動計画の採択から 2 年以内に、国家行動計画を策定し、行動する」ことが決議されました。

日本でも、2016 年から薬剤耐性対策アクションプランが始まりましたが、規制はまだ一部の抗生物質にとどまり、調査や影響評価を行っている段階です。

保美豚は、子供達の将来の安全のため、 抗生物質を使わなくてもよい、健康な豚を育てています。

● 母豚から育てているから、生まれた子豚も抗生物質を使わない

「生育期間中は抗生物質不使用」という豚肉は他にも見かけますが、一般的に販売される子豚のほとんどは、生後しばらく抗生物質が使用されています。母豚から育てているからこそ、全段階で抗生物質を使わない育て方が実現できているのです。

■ 自然治癒力や免疫能力を高める餌を与え、丈夫な体に育てる

→「こだわり 2 食べもので、健康とおいしさを。」をご覧ください

■ 豚がのびのび育つ環境を整える

→「こだわり 3 生育環境で、元気とおいしさを。」をご覧ください